

文化学園所蔵「着物図案」およびその関連資料群について

Kimono Design Resources Accessible at Bunka Gakuen

近藤 尚子* 田中 直人** 関口 光子*** 中村 弥生****

KONDO Takako, TANAKA Naoto, SEKIGUCHI Mitsuko and NAKAMURA Yayoi

要旨

「BFRI研究・教育資源アーカイブ」は、2020年度に文化ファッション研究機構和装文化研究所が中心となり立ち上げた学内限定サイトである。文化学園が所蔵する膨大な服飾関連資料をWeb上で共有することでその所在を明確にし、研究・教育の場における共同利用を促進しようとするものである。現在はその活性化を図るべく、資料の蓄積とサイト認知度の向上を意図した学内向けの取り組みに努めている。本稿では、新たにアーカイブ化を進めている「着物図案」およびその関連資料群について、これまでに完了している調査内容（構成、寸法、彩色、材質、レイアウト）並びに、デジタルアーカイブ化に向けた画像化の手法とサイト掲載情報の検討内容について報告する。

尚、本稿の表3では図案の鮮明な画像を可能な限り掲載しようと試みた。これは、1,306点に及ぶ本資料群のバリエーションに富んだデザインが、あらゆる着想のツールとして幅広く活用できることを示すためであり、それを周知することで「BFRI研究・教育資源アーカイブ」の利用者増加につなげたいと考えるためである。

●キーワード：着物図案 (Kimono design) / 研究資源 (research resources) / アーカイブ (archives)

I. はじめに

文化ファッション研究機構（以下、BFRI）¹⁾ 和装文化研究所²⁾ では、文化学園が所蔵する膨大な服飾関連資料の所在を明確にし、研究・教育の場における共同利用を促進すべく、資料情報をWeb上で共有する学内限定サイト「BFRI研究・教育資源アーカイブ」³⁾ を2020年度に立ち上げた。現在までにサイト掲載を行った資料(作業途中の資料を含む)は、以下の通りである。

・「雑誌『装苑』掲載資料」⁴⁾

所蔵：文化学園ファッションリソースセンター

・「被服構成学実習教材」⁵⁾

所蔵：文化学園大学短期大学部

(現・文化学園大学服装設計研究室)

・「ピエール・カルダン関連資料群」⁶⁾

所蔵：文化学園図書館、文化学園服飾博物館、文化学園ファッションリソースセンター、文化学園大学短期大学部（現・文化学園大学服装設計研究室）、秘書室・総務課

・「形柄帳およびその関連資料群」⁷⁾

所蔵：文化・ファッションテキスタイル研究所

しかし、上記コンテンツの活用が十分になされているとは言い難い状況であるため、現在はその活性化を図るべく資料の蓄積とサイト認知度の向上を意図した学内向けの取り組み（学内研究発表会における報告、本学紀要への投稿など）に努めている。

以下に紹介する資料は、新たにアーカイブ化を進めている「着物図案」⁸⁾ およびその関連資料群である。本稿では、これまでに調査が完了している5項目（①構成、②寸法、③彩色、④材質、⑤レイアウト）並びに、デジタルアーカイブ化に向けた画像化の手法とサイト掲載情報の検討内容について報告する。

II. 文化学園所蔵「着物図案」およびその関連資料群の基礎調査について

本資料群は、2009年頃に文化学園ファッションリソースセンター⁹⁾ が外部より寄贈を受け、この管理を2017年頃に和装文化研究所が引き継いだものである。それ以前の来歴に関しては、資料に残されていたメモなどから辿れる情報が少なく、現時点では推定できていない。

総資料数は1,306点。16個の透明なケース（930mm ×

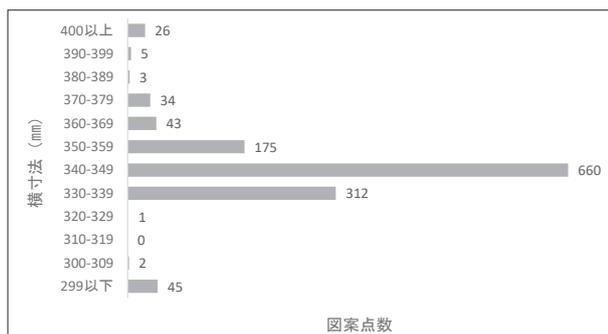
395mm×60mm)に保管されている。尚、ケースごとに図案点数が異なり、また一つのケースに様々な図案が混在していることから、分類方法に規則性は感じられない。

表1は縦寸法別の点数を図案の構成(台紙とフィルムの有無)ごとに分類したものである。横寸法別の点数は図1に示す。

表1 台紙とフィルムの有無による縦寸法別の点数

縦寸法 (mm)	台紙あり		台紙なし		合計
	フィルムあり	フィルムなし	フィルムあり	フィルムなし	
700以上	249	113	23	139	524
600-699	19	110	8	22	159
500-599	220	79	27	67	393
400-499	16	27	0	6	49
300-399	12	58	1	24	95
299以下	14	64	0	8	86
合計	530	451	59	266	1,306

※最小値93mm、最大値796mm



※最小値91mm、最大値1,528mm

図1 横寸法別の点数

①構成

- ・フィルムで覆われた図案を台紙に貼り付けたものが530点と最も多いことから、この形態が本資料群における代表的な構成と言える。(表1)(画像1)



画像1 代表的な着物図案の構成

②寸法

- ・図案の縦寸法における最小値は93mm、最大値は796mm。長さ別の枚数では700mm以上が最も多く524点、次いで500~599mmが393点。(表1)
- ・横寸法における最小値は91mm、最大値は1,528mm。330~359mmの合計点数は1,147点で、全体の88%を占める。(図1)

③彩色

- ・彩色パターンは、「彩色あり」「彩色途中」「彩色無し」の3種類。
- ・彩色ありが1,053点(81%)と最も多く、次いで彩色無しが173点(13%)、彩色途中は80点(6%)。

④材質

- ・画用紙に描かれたものが905点(69%)、次いで和紙が218点(17%)。
- ・その他には、薄紙・フィルム・布などに描かれているものもある。

⑤レイアウト

- ・柄の一部分を描いたものと着物全体を描いたものがあり、柄の一部分を描いたものが1,194点(91%)。

Ⅲ. デジタルアーカイブ化に向けた図案の画像化およびサイト掲載情報の検討

1. 図案の画像化における問題と解決策

大型資料のため一般的なスキャナでは画像を読み取ることが出来ないことから、カメラで図案を撮影することとした。カメラを三脚に設置し床に向けることで、上部から撮影を行った。これにより、図案全体を画角に収めることができた。また、フィルムで覆われているものは照明の反射や機材の映り込みが生じるため、試行を重ねる中で最も影響の少なかった方法(画像2)を採用することとした。詳細は以下の通りである。(表2)

表2 撮影方法

撮影場所	文化学園大学F館4階F48
	条件: 天井灯に蛍光灯(FHF 32EX-N-H)を使用、窓が無い
撮影機材	カメラ: SONY RX100VI (DSC-RX100M6)
	三脚: Velbon Mark-7, PH-270
セッティングなど	・三脚を使用し上部から撮影する
	・反射等防止のため図案に対して三方を黒い布で覆う(画像2)
	・撮影はオートフォーカスで行う



画像2 撮影機材のセッティング

2. サイト掲載情報の検討

本取り組み^{4) -7)}にて調査、公開する情報は、検索利便性を意識して選定した数件の項目のみであり、追加調査の余地を大きく残したものの、といえる。これは、自ら調査することを研究の第一歩と捉える多くの利用者には、「きっかけとなる情報」が「数多く」公開されることこそ有効である、と考えるためである。本取り組みでは継続して、詳細ではなく概報を、なるべく多く掲出することを目指している。

尚、本サイトでは図案ごとに割り当てられた番号と図案サイズを表記する予定である。また、検索に必要なキーワードとして、「柄の種類」と「柄の向き」の掲載も検討している。

①検索キーワード：柄の種類

「着物図案」と言うと和様や懐古趣味的なデザインをイメージされることが多いと思うが、実際には古典から現代、具象から抽象まで、バリエーションに富んだデザインが含まれている。着物の枠にとらわれないあらゆるデザインの着想ツールに成り得る資料であるため、多くの人に幅広く活用してもらえよう、誰にとっても分かりやすいキーワードとして「柄の種類」が適していると考えられる。

②検索キーワード：柄の向き

図案には、柄に上下の向きがあるもの（画像3）とないもの（画像4）とがあり、それが着物の種類（訪問着、小紋など）を決める一指標となる。柄の向きを示すことで、用途に合った図案を容易に検索できることから、実際に着物図案を作成しようとする人にとって便利なツールになると考える。

「柄の種類」と「柄の向き」による分類を、着物図案の画像と共に表3に示す。



画像3 柄に上下の向きがある着物図案（植物模様）



画像4 柄に上下の向きがない着物図案（風景模様）

IV. おわりに

本稿では、「着物図案」およびその関連資料群の鮮やかな画像を、可能な限り掲載しようと試みた。これは、本資料の魅力を一人でも多くの人に知ってもらいたいとの思いによるものであり、それが結果として「BFRI研究・教育資源アーカイブ」の利用者増加につながると考えるためである。尚、本資料のサイト公開については来年度を予定している。

最後に、本取り組みを通して問題点も見えてきた。それは、資料の未整理状態が長期化することによって生じる情報の喪失である。2023年に創立100周年を迎える本学園では、他の教育機関と同様に、研究・教育に関する資料が日々蓄積されている。しかし、多くの職員にとって資料整理は主たる業務でないことなどから、その整理は滞り情報が失われつつある。歴史ある貴重な資料情報を後世に引き継ぐためには、研究室に所蔵される資料の整理を業務として捉え、継続的に進めることが必要ではないだろうか。本稿を、所蔵資料の整理の必要性と向き合うためのきっかけとして頂けたらと思う。

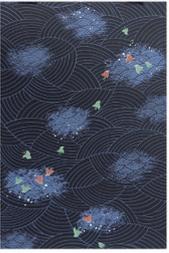
謝辞 調査にご協力いただきました瀬藤貴史氏、文化学園ファッションリソースセンターに御礼申し上げます。

注

- 1) 文化ファッション研究機構 (BFRI) は、2008年度に文部科学省より「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」に採択され、「服飾文化共同研究拠点」として設立された研究拠点である。
- 2) 和装文化研究所は、2013年度に発足した和装文化ときものに関する研究などを行う機関である。
- 3) 「BFRI研究・教育資源アーカイブ」は、2020年に和装文化研究所が中心となり、学園内の研究・教育資源に関する情報をネットワーク上で公開・共有するために立ち上げた学内限定サイト。公開、共有に向けた準備作業に誰もが容易に携われるよう「既存の施設、設備、道具を利用し、既存の人材で可能な方法」を用いることを方針としている。
- 4) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 関口光子: 学園内所蔵資料の研究利用促進に向けた初歩的検討と試行—デジタルアーカイブ化を意識した未整理資料調査と概報作成—, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 50, pp.119-124 (2019)
- 5) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 小出恵, 関口光子: 文化学園大学短期大学部所蔵被服構成学実習教材について, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 51, pp.136-139 (2020)
- 6) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 小出恵, 関口光子: 文化学園所蔵のピエール・カルダン関連資料群の紹介, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 52, pp.111-116 (2021)
- 7) 近藤尚子, 田中直人, 中村弥生, 関口光子: 文化学園所蔵「形柄帳」およびその関連資料群のアーカイブ化, 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要, 53, pp.83-87 (2022)
- 8) 着物図案とは、着物の下絵として描かれ彩色された模様であり、着物全体をイメージするためのデザイン画を指す。

り、着物全体をイメージするためのデザイン画を指す。
9) 文化学園ファッションリソースセンターは、文化学園大学と文化服装学院の附属機関として1999年7月に開設された。テキスタイル資料室、映像資料室、コスチューム資料室、企画室で構成されている。

表3 「柄の種類」と「柄の向き」による分類

	柄に上下の向きがある	柄に上下の向きがない
動物	  	  
植物	  	  
建物、器物、風景	   	  
幾何学、その他	  	